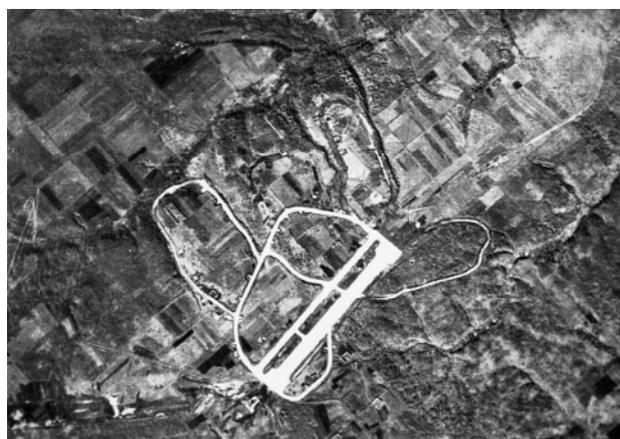


## 日本軍による陸海軍飛行場建設にかかる年表

- 1940（昭和15）年 — 陸軍計根別第一飛行場（別海町本別地区）の工事起工。  
※計根別という名前が付けられているが、行政区域としては別海町になる。
- 1941（昭和16）年 — 陸軍計根別第一飛行場（別海町本別地区）建設のため農家23戸が移転。
- 1942（昭和17）年 — 第一標津海軍航空基地（中標津：後の中標津空港）建設のため近隣農家の立ち退きが始まる。
- 1月17日 陸軍計根別第1飛行場（別海町本別地区）建設工事が着工される。  
※工事には兵員の他、地元の国防婦人会・在郷軍人の他、全国から勤労報国隊、女子挺身隊、学徒勤労働員、強制労働者（朝鮮人・中国人・日本人）が従事した。
- 1943（昭和18）年 — 旭川第七師団の歩兵第二十八連隊「熊九二〇七部隊」（通称：熊部隊）の駐屯により中標津国民学校（現中標津小学校＝当時は中標津高等学校の場所にあった）の校舎が一部兵舎として使用される。  
※北海道農業試験場根室支場（現伝成館）も防空監視に使用された。
- 中標津～開陽間の殖民軌道が飛行場建設のため廃止される。
- 4月 第一標津海軍航空基地（中標津）の測量・工事着工。
- 5月 陸軍計根別第一飛行場（別海町本別地区）建設のため、標津線の西春別駅～計根別駅の間から分岐する線路が敷かれる。  
陸軍計根別第一飛行場（別海町本別地区）建設警備のため青森県八戸市から先遣隊25名が到着。



昭和22年10月31日、アメリカ軍撮影による陸軍計根別第一飛行場（左）と第一標津海軍航空基地（右）

- 1943（昭和18）年12月 （別海町本別地区）に青森県八戸市より第八十飛行大隊の本隊が到着する。
- 1944（昭和19）年 2月28日 陸軍計根別第一飛行場（別海町本別地区）が完成。  
 5月 1日 第一標津海軍航空基地（中標津）建設のため、国鉄標津線の中標津駅～上武佐駅の間に東標津信号所が開設される。  
 — 第一標津海軍航空基地（中標津）が完成。  
 第二標津海軍航空基地（標津町川北地区）の建設工事が着工。  
 9月 陸軍計根別第二～第四飛行場が完成する。
- 1945（昭和20）年 7月14日 標津一帯に艦載機のグラマン機（9機）による空襲。  
 計根別・中標津が銃撃を受ける。兵士1名、徴用2名が死亡（15日にも来襲）。  
 8月15日 大東亜戦争終結。  
 8月24日 アメリカ軍が第一標津海軍航空基地（中標津）着。武器等を接收し焼却する。  
 10月 アメリカ軍が第一標津海軍航空基地（中標津）の爆弾を釧路へ運ぶ。  
 11月16日 中国人強制労者56人が中標津・計根別市街で暴動を起こす。



昭和22年10月31日、アメリカ軍撮影による中標津市街